

# 専門資格は情報リテラシーの質を保証できるか

—司書課程科目「情報サービス論」受講生の読み書き話す能力に見る大学基礎教養教育の課題

仁上幸治

## —要旨

和光大学の図書館司書課程の必修科目「情報サービス論」で実施した受講生アンケート集計結果を素材として、資格課程の専門的知識・技能の習得に必要なカリキュラム上の問題点を整理し、改善策として、(1)資格課程ガイダンスにおけるカリキュラム体系の説明の充実、(2)履修順序のモデルケースの提示、(3)演習科目の前提科目設定の追加、(4)「図書館概論」科目の履修年次の一年次への繰り上げ、(5)司書課程内教員メーリングリストの設置、の5点を挙げた。同時に、本学における基礎教養教育のありかたについて、特に情報リテラシー教育の観点から、改善案として、(1)教育=学習支援システム Moodle の全学的活用、(2)図書館活用法とレポート・論文作成法とプレゼンテーション技法の基礎演習科目への組み込み、(3)基礎演習科目と専門科目における図書、雑誌論文、新聞記事のデータベース検索の反復応用の徹底、(4)レポート課題のパソコンによる作成・システム上での提出の強化、の4点を挙げた。

## はじめに

本学においては「情報サービス論」は図書館司書課程科目群の必修11科目（計24単位）の一科目である（他に選択科目4科目各2単位から2科目を選択。合計13科目28単位）。授業のアクティブ・ラーニング化という課題<sup>(1)(2)(3)</sup>については、図書館司書課程・司書教諭課程、基礎教養科目の教歴17年の中で、授業における双方向性の重視、受講生同士の協働性の導入、自主性・自発性・主体性の涵養、情報機器とネットワークの徹底活用などぎりぎりまで工夫を重ねてきた。講義科目・演習科目どちらもマルチメディア教室で行い、講義・ノートテイク主体の伝統的な授業形態を演習・発表・討論主体の双方向授業に変え、板書をスライドショーと映像教材のプロジェクター投影に変え、使用するプリント配付資料とスライドショーの元原稿は大学の教育用各種システムを通じてPDF版で配付し、毎回レポート課題を与え次回授業の前日締切でウェブ提出させ、グループ討論時にプリントアウトしたレポートを提示しながらプレゼンテーションさせた。授業最後にミニッツペーパーで学習成果を自己確認させ、レポート提出後にウェブ上のふりかえりアンケートで前回授業の理解度と運営上の要望事項を書かせ、次回授業の内容と時間配分にフィードバック

クした。連絡・質問はクラスメーリングリスト（フォーラム）と私信メールで受け付けるなど授業時間以外にも随時コミュニケーションが可能な状態を確保した<sup>(4)</sup>。

授業方法の工夫とコミュニケーション補完装置の活用によって、受講生の主体的な学習姿勢を増進し、手抜きと言いつの余地をほぼ完全に封じることができる。アクティブ・ラーニングの前提条件が整備されている授業条件のもとで、果たして専門資格科目の授業設計がスムーズに行えるかというのが次のテーマとなる。

資格課程の受講生は卒業資格を満たし所定の科目を修了すれば資格免状を取得することができる。たしかに職業的専門資格には専門的知識・技能を習得したことの証明書として、卒業後の進路にとって何らかの有利な条件を得るという付加価値がある。しかし、その資格が就職後の活躍を保証するかと言えば、必ずしもそうとは言えない。卒業生の能力面に限れば、専門資格は基礎教養という土台を前提としているから、土台が揺らげば、資格の有効性も怪しくなる。大学が自信を持って卒業生を世に送り出すには、専門資格課程と同等以上に基礎教養教育の充実を図らなければならない。本学の学生と接する中で、読む力、書く力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力など社会人基礎力<sup>(5)</sup>の基本を身に付けていない学生があまりにも多いことに驚く。図書館現場で働く人材として推薦状を書くのも憚られるレベルなのだ。もちろん、一教員として大学以前の学校教育・家庭教育の貧困を嘆き、他大学の司書課程も同じようなものだと高を括ることで大学教育の責任の一端を他人に転嫁することはできなくもないが、だからといって、大学が卒業生の質保証という教育機関としての責任を免れるわけではない。

本稿は、大学卒業生の社会的評価の向上および図書館司書資格の価値の向上をめざす立場から、大学における基礎教養教育、特に情報リテラシー教育のありかた、および本学における図書館司書課程のありかたについて、受講生アンケートに記述された生の声を素材として、問題点を浮き彫りにし、改善案を提示するものである。本学の教育の改善に多少とも貢献できれば幸いである。

## 1. 授業概要

### 1. 日時・教室

本年度（2016年度前期）の「情報サービス論」は、水曜日4限の「専門資料論」に続く5限、8号館E202教室（マルチメディア教室）で行われた。

### 2. シラバス

シラバスの内容は以下のとおりであった。

#### (1) 授業テーマ

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービスを含む各種の情報サービスの実務について総合的に解説する。

- 1) 図書館における情報サービスの意義
- 2) サービス基盤となる情報源、組織、各種図書館、図書館員の専門性
- 3) 利用者の情報ニーズ、情報アクセス権

## (2) 授業目標

情報サービスの概要を理解し、住民のニーズに合わせたサービス開発への積極的な姿勢を持ち、基本的なレファレンスツールを適切に使いこなせる能力を身に付けることを目指す。

- 1) 情報サービス一般の広がり図書館が行う情報サービスの位置付け
- 2) 図書館における情報サービスの意義と種類（レファレンスサービス、レフェラルサービス、カレントアウェアネスサービス等）
- 3) 情報および情報探索行動についての基本的理解
- 4) レファレンスプロセス（レファレンス質問の受付から回答まで、マニュアル検索とコンピュータ検索を含む）
- 5) 情報検索サービスの方法・プロセス・評価
- 6) 主要な参考図書とデータベースの解説と評価
- 7) 参考図書およびその他の情報源の組織（二次資料の作成にも触れる）
- 8) 各種情報資源の特質と利用法についてテーマを選択し、多様な情報資源の活用提案と発信を試みる。

## (3) 履修条件・成績評価の基準等

### 1) 成績評価方法

- ・出席（50%）、レポート（30%）、授業参加度（20%）の総合評価。授業中に小レポート、次回までの課題レポート、最終レポートがある。
- ・初回・最終回を含む3分の2以上の出席と、レポート全点提出が必須。出席やレポートに不正があった場合は自動的に不合格とする。

### 2) 履修条件

- ・毎回、次回までのレポートが課される。毎週1-2時間の自習時間の確保が履修の必須条件である。
- ・第1回目のオリエンテーションは、授業の進め方や成績評価方法の重要な説明があるので必ず出席すること。やむをえず欠席する場合は事前に相談すること。事前相談がなかった場合、第2回目以降の出席は認めない。
- ・学習到達目標に掲げた専門的な知識・技能・姿勢を身に付けるため、文献調査・レポート作成・発表・討論を徹底的に反復練習する。積極的な授業参加が求められる。
- ・パソコン、メール、ウェブ、ワープロソフトについて初級以上の知識・技能が必須。
- ・授業中は私語、読書、ケータイ等の行為は一切禁止。違反者は即刻履修無効とする。

## (4) 教科書

『情報の達人（テキスト）』第2巻「ゼミ発表をしよう！： テーマ選びからプレゼンター

ションまで」紀伊國屋書店, 2007, 300 円 (税別)

(5) 参考文献: 適宜紹介する。

(6) 授業の計画 (\*付録1 授業計画参照)

### 3. 履修者と成績結果

履修者は計 23 名。内訳は経済経営学部 2 名、現代人間学部 6 名、表現学部 15 名。2 年生 11 名、3 年生 10 名、4 年生 2 名であった (表 1)。

成績は表 2 のとおりであった。

### 4. 学習成果の自己評価と授業評価

履修者による学習成果の自己評価と授業評価の結果は表 3 のとおりであった。5 点満点で学習成果の自己評価の平均値は 3.76、授業評価は 3.81 であった。

アンケートの記述から項目別に代表的・特徴的なものを抜粋紹介する (全原文は付録 2 参照。誤記もあえて原文のまま採録)。

#### (1) 学習成果の自己評価

対面またはメディアによる教育的指導サービスをテーマとする当科目の狙いどおり、科目の趣旨は受講生によく伝わっていることがわかる。

第一に、学習成果の自己評価では、基礎リテラシーについての成長ぶりが典型的である。

「1 点目は調べ方、書式の重要さを改めて理解した。今までレポートなどは書籍しか引用しなかったが、新聞や有料版の辞書を使うことができるようになった。2 点目は自分の意見を相手に伝えることに慣れた。話すことが目的な授業なので、必ず話さなければいけないため、意見をしっかりと言えるようになった。3 点目は今の図書館の現状がわかった。特色のある図書館が多くなり、求められている能力の

表 1 履修者内訳 (学部別・学年別人数)

	2 年	3 年	4 年	計
経済経営学部		1	1	2
現代人間学部	5	1		6
表現学部	6	8	1	15
計	11	10	2	23

表 2 成績別人数と合格率

成績	S	A	B	C	D	履修者計	合格者	合格率
人数	2	9	7	5	0	23	23	100%

表 3 学習成果の自己評価と授業評価

評価点数	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	無回答	合計	有効	平均
学習成果の自己評価	0	16	5	0	0	2	23	21	3.76
授業評価	2	14	4	1	0	2	23	21	3.81

多さにも驚いた」

第二に、ほとんどの学生が、情報活用力、レポート作成力、コミュニケーション力の向上を挙げている。

「課題をこなす能力、グループトークに対応する能力、資料の扱い、探索能力など。基礎的な能力の数々だがこの授業以外ではなかなか学べず、それでいてこの授業以外でも有用な能力の大きな成長を感じた」

「情報探索、情報処理の基本的な部分を身につけることが出来た」

「有料データベースなど初めて扱ったもの、存在自体初めて知った」

「調べ方の幅が広がった。紙の二次資料や OPAC の検索など、自分がどんな時にどの調べ方をすればいいか分かるようになった」

「今まで機会がなくパソコンもレポートもほとんどやらなかったのが、機会が増えたことで身につけることができて成長した」

「文章を要約する力が身につき、タイピングの速度が上がった」

「毎週、レポートに向きあうことが、苦しくなくなった」

「決められた時間内に自分の伝えたい内容をまとめ、尚且つ伝わりやすいように話すという経験をしたことによって発表能力が鍛えられた」

「あがり症だったが、人前で自分の考えを淡々と話せるようになった」

「アルバイトではその店の店員として接客できますが、学友と話したり打ち解けたりというのが苦手だったが、この授業を受け何人か友達が增えるぐらいには成長した」

第三に、学習姿勢の向上についても言及が多い。

「今までは与えられる知識について受動的であったが、少し能動的になれた」

第四に、専門科目として図書館活用力の向上の重要性に改めて気づいている。

「図書館の多様なサービスを知り、いろんな図書館にあるサービスに興味を持つようになった。自分の中で図書館に対する意識が変わったので、今度は他の人に伝えられるようになりたいと思う」

## (2) 授業の良かった点

授業評価では、以下の記述が全般に典型的である。

「この授業の運営や内容でよかった点は3つある。1つ目に運営の柔軟な対応がある。アンケートの意見にすぐに対応していく授業はこれまでなく、新鮮だった。2つ目にグループ討論がある。様々な意見が聞けるのはもちろん、いろんな人の調べたことを知れたのは興味深かった。3つ目はレポートの経験値が増したことである。だんだん慣れていくことができ、技術が上がるのを感じることができた」

授業の内容や運営で良かったこととして、目立ったものを以下に5点挙げる。

第一に、授業の導入部と本題教材に映像資料を多数用意したことに対する高評価が目立つ。

「映像によってリアルに図書館というものを感じることが出来た点だ。映像として実際の現場を見せてもらったことでイメージがしやすかった」

「映像資料が準備されていて、講師が喋ったり、自分でレポート書くのとは別の角度から学習できて良かった。映像資料の種類も豊富で、DVDだけでなく、映画の1シーンであったり、バラエティ番組やアニメであったり、CMであったりして、意外と図書館モチーフのものが多いことに気づかされた」

「映像資料において、冒頭は親しみやすいものを、中盤には専門的ながら分かりやすいものを使用しており、集中力と理解力を高められた」

「授業の冒頭映像は、難しそうだな、と考えていた固定概念を根こそぎとってくれたので、とても授業にのめり込みやすい環境だった」

第二に、教育＝学習支援システム Moodle の活用は非常に好評である。

「Moodle を活用しており、発言出来なかった学生へのフォーラム投稿の救済」

「ムードルを授業に組み込んだ点。扱うのは難しかったが、とてもよい経験になった」

第三に、グループ討論と全体討論の機会を毎回設けたことに評価が高い。

「自分の意見を発信したり、人の意見を吸収したりというように討論ができたことが一番ためになった」

「グループ討論で様々な意見が聞けるのはもちろん、いろんな人の調べたことを知れたのは興味深かった」

「自分の意見を言う授業はないので、思っていることを言えて、共感できる部分とそうではない部分などあり、面白かった」

第四に、ウェブ上に「ふりかえりアンケート」を設けて、毎回の授業の理解度や満足度、要望などについて受講生からのホンネの声を聞き出し、すぐに次回の授業から改善するようになった点には感謝の言葉が多い。

「アンケートの意見にすぐに対応していく授業はこれまでなく、新鮮だった」

「毎度のアンケートで生徒からの改善案があがると対応が早かった点。先生の柔軟性と生徒への思いやりあってこそだった」

「学生からの要望・意見に素早く（時には試験的な試みも交えながら）対応していたのは、教員と学生と一緒に授業を作っているようでとても良かった」

「次回からそれらの改善点が実践されており好感が持てた。そのおかげでストレスを感じることなく毎回の授業を受ける事が出来た」

「生徒からの意見が積極的に取り入れられていたため、回を重ねるごとにさらに受け

やすい授業になっていった」

第五に、レポート作成を毎回課し、次の回に発表・討論させ、講評したことは好評である。

「基本の知識や技術を学べるようになっていたのがとてもよかった。情報リテラシーを備えていないと社会に出てから困るのでそういったことを学べる授業でとても役に立った。毎回のレポート課題も大変だったが自分の力になるもので授業を受ける前よりたくさん力をつけたのが良かった」

### (3) 授業の要改善点

授業について改善してほしいこととして、学生から寄せられた主な要望を以下に2点挙げる(2016年度後期から改善済)。

第一に、授業参加に消極的な学生に対して発言を促す一層の工夫・努力である。

「授業内で発言する人、発言しない人に分かれてしまっていたので、発言させるよう促すことが必要だと思う」

第二に、レポートの課題の量と提出締切日時(前々日の17時)に関する要望である。

「課題が、大変すぎる。1回のボリュームを増やして回数を減らすか、ポイントを絞って週1でも無理のない内容にした方がいいと思う。1つの授業の為にここまで時間を割くのは、今の大学生には無理があると思う」

「レポートの課題の締切期間は短めだなと感じました。今回も最終回が終わりさらにはテスト期間中の課題で、自分が出来ないからどうのと言うわけではなく締切時間を例えば0時にするなどの配慮があるとやりやすい」

「水曜日の5限に発表されて締切が月曜の5時であったが、締め切り時間が5限の授業内なので講義を入れていた場合4限までに提出しなければならないという点は改善すべき」

### (4) 司書課程の要改善点

司書課程に対しては、ガイダンスや履修順序、さらには授業のありかたに対して強い改善要望があった。以下に4点挙げる。

第一に、履修順序と履修モデルケースに関する内容が目立つ。

「図書館概論という授業が取れていないうちから、他の司書課程の授業を受けるとやりにくかった。専門用語が分かってないとやりにくかった」

「学校側が司書課程履修モデルをつくるべきだ。司書課程の履修は数年単位で行うものなので、学生のみ任せると、適切な取り方が分からない」

「司書家庭(ママ)のモデル時間割のようなものをヒントでもいいから、作ってもらえると、好ましい履修ができるのではないか」

第二に、科目の履修配置年次を早める要望である。

「資格課程を2年からでなく1年から受けられるようにしてほしい」

「司書課程が、一年の頃からとれていたら最高だった。授業や他の資格を取りやすくなり、今よりもぎゅうぎゅう詰めにしなくてすむのではないか」

第三に、ガイダンスの改善である。

「図書館司書課程は図書館司書課程だけで説明会を行い、どの授業からとるといいかのモデルケースを提示してしっかりと説明を行うべき」

「一応、資格課程オリエンテーション時に司書課程の履修モデルケースの提示はあるものの「何故その講義をそのタイミングで取らねばならないのか」という説明がないため、モデルケースの意味を成していない」

第四に、司書課程科目全体の授業について厳しい指摘もあった。

「図書館司書課程の教員の授業は、分かりにくいものが多い。教授の授業と比べると、本当にわからない。授業の時間割に関する希望調査だけではなくて、教員に対する文句が言える機会を大学側には用意してほしい」

#### (5) 大学教育の要改善点

大学に対しては傾聴すべき重要な指摘があった。以下に3点挙げる。

第一に、全学生への図書館利用教育の不足を改善することである。

「図書館資格をとれる大学なのに、司書課程を取る人しか図書館を利用していない気がしたため、大学側はもう少し利用者を増やす努力をした方がよいのではないか。図書館でパソコンの使い方など企画をしているが、参加しにくい雰囲気があったため、司書資格以外の授業でも、図書館の利用法を学ぶ機会を増やした方がよいと感じた」

第二に、プレゼンテーション力の向上策である。

「受講生の大半がプレゼンテーションに使うツールを使いこなせないことが判明したので、使いこなせるよう指導するなり講習会を開くなりといった対策が求められていると思う」

第三に、情報機器環境についての改善要望である。

「機材の起動が遅かったり、フリーズしてしまうことが多々あるので、そのあたりを改善してほしい」

「コンピューターの起動速度をもう少し早くしてほしい」

「パソコンの通信が非常に遅く、課題や学びの進み具合に影響が大きいいため、もっと

重要視してほしい」

「(有料新聞データベースについて) 利用できる数や使用時間を増やしてほしい」

## 2. 問題点

授業経験と受講生アンケートの結果から、図書館司書課程の専門的知識・技能の習得に関する問題点を以下の5点にまとめておく。

- (1) 資格課程ガイダンスが不十分
- (2) 二年次からの履修では段階的履修が難しい
- (3) 履修順序は「推奨」にとどまり実効性が乏しい
- (4) 情報リテラシー教育が統合的に体系化されていない
- (5) カリキュラムと授業の改善体制が弱い

各問題点について、簡単に説明する。

### (1) 資格課程ガイダンスが不十分

資格課程ガイダンスは、図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、博物館学芸員の4課程合同で実施されており、各課程の詳細の説明が行き届いていないという指摘である。どんな学問分野でも、学習するには基本から応用へ、総論から各論へという積み上げの順序というものがある。この事実は大学新生にとっては必ずしも常識になっていない。図書館情報学の学問としての構造・構成の概略を示し、図書館課程のカリキュラム体系と履修順序、学年ごとの履修モデルが十分に説明されていない（あるいは説明が理解されていない）点が履修開始以前の大きな問題となっている。

### (2) 二年次からの履修では段階的履修が難しい

履修年次が二年次からに設定されているため、前期設置の入門科目である図書館概論を履修し終える前に、あるいは同時並行履修しながら、発展科目・応用科目を履修できる形になっている。図書館概論を一年次に履修できない点が教育効率を非常に悪くする原因になっている。

### (3) 履修順序は「推奨」にとどまり実効性が乏しい

必修科目の履修順序については、『資格課程の手びき2016』<sup>(5)</sup>には《「図書館概論」は二年次に受講することを推奨します》(受講上の注意 p.74)と記載されているがあくまで「推奨」にとどまる。明記されている規定としては、図書館情報資源組織演習の前提科目に図書館情報資源組織論が設定されているだけである。二年次に履修開始した学生は、図書館概論や図書館サービス論も履修し終えていない時点で、あるいは同時並行履修しながら、情報サービス論を履修していることになる。情報サービス演習1・2については情報サービス論が履修条件に設定されていないため、情報サービス論を履修し終わらず情報サービス演習1・2を履修できることになる。当然ながら基礎的な用語・概念を知らないまま演習授

業を受けても理解度は期待できない。

(4) 情報リテラシー教育が統合的に体系化されていない

大学の基礎教養教育の中心である情報リテラシー教育が図書館利用教育やパソコン活用教育と統合されておらず、自学自習の基盤が弱いまま専門教育へ進む形になっている。

(5) カリキュラムと授業の改善体制が弱い

図書館司書課程専任の教員が配置されておらず兼任体制であり、上記のような様々な問題点を個々の外部非常勤講師から吸い上げる仕組みが弱く（年に1回の非常勤講師懇談会のみ）、課程内のヨコのつながりの仕組みがなく（課程教員メーリングリストがない）、個々の教員の授業改善はあくまで自分の担当科目の中での自主的なものにとどまらざるをえない。

### 3. 改善案

#### 1. 資格課程の改善案

以上の5点の問題点について、以下に改善策として5点を挙げる。

- (1) 資格課程ガイダンスにおけるカリキュラム体系の説明の充実
- (2) 履修順序のモデルケースの提示
- (3) 演習科目の前提科目設定の追加
- (4) 「図書館概論」科目の履修年次の一年次への繰り上げ
- (5) 司書課程教員メーリングリストの設置

以下、個別に補足説明する。

(1) 資格課程ガイダンスにおけるカリキュラム体系の説明の充実

新入生の知識・意識に合わせて、図書館情報学の学問としての構造・構成の概略を示し、図書館司書課程のカリキュラム体系と履修順序、学年ごとの履修モデルをわかりやすく説明する。できれば資格課程ガイダンスの後に、短時間でも図書館司書課程ガイダンスの時間枠を別途設ける。

(2) 履修順序のモデルケースの提示

履修順序のモデルケースを示すことが重要である。基礎科目から応用科目へ、総論から各論へという順序として、図書館概論、図書館サービス論、情報サービス論、情報サービス演習1・2という「望ましい履修順序」を示しておくことが重要である。これによって図書館概論以外の基礎科目・サービスに関する科目などの発展応用科目の授業の効果と効率は大幅に向上するはずである。

(3) 演習科目の前提科目設定の追加

情報サービス演習1・2の前提科目として情報サービス論の履修を必須とする案である。諸事情によりルール化が難しいのであれば、図書館概論と同様に強い「推奨」レベルの説明を追加する。

#### (4) 「図書館概論」科目の履修年次の一年次への繰り上げ

履修順序逆転という現状の弊害を多少とも緩和する対策として、せめて、一年次前期にガイダンス、後期に図書館概論を設置することができれば、二年次に図書館サービス論、三年次前期に情報サービス論、後期に情報サービス演習1・2というモデルケースどおりの履修が可能になる。実際、『資格課程の手びき2016』（前出、p.4）の幼稚園課程には、心理教育学科の幼児教育課程と保育専修の学生は1年次に受け付けるという例外規定がある。これに倣うことには特に障害はなさそうに見える。

#### (5) 司書課程教員メーリングリストの設置

現在、年度末に1回、「司書課程非常勤講師懇談会」が開催されているが、様々な問題を議論するには時間が不足している。授業経験の中で感じた問題を提起してもその後のフォロー状況は不明である。昨年度2015年1月に司書課程教員メーリングリストの設置を提案したが、保留となっている。技術的ネックのある事案でもないので、すぐに実現できることである。

## 2. 大学教育の改善案

本学における基礎教養教育のありかたについて、特に情報リテラシー教育の観点から、改善案として、以下の4点を挙げる。

- (1) 教育=学習支援システム Moodle の全学的活用
- (2) 図書館活用法とレポート・論文作成法とプレゼンテーション技法の基礎演習科目への組み込み
- (3) 基礎演習科目と専門科目における図書、雑誌論文、新聞記事のデータベース検索の反復応用の徹底
- (4) レポート課題のパソコンによる作成とシステム上での提出の強化

以下、個別に補足説明する。

#### (1) 教育=学習支援システム Moodle の全学的活用

当科目で初めて Moodle を利用した学生が多数いることは、せっきくの教育=学習支援システムが全学的に活用されておらず、欠席者への資料配付がなされず、授業に対する学生からのフィードバックの回路が弱いことを示している。初年次からこのシステムを多くの授業で活用するようにすれば、資料配付、レポート提出、質問と要望の共有などが格段に前進する。授業改善はまずこのシステムの活用からであろう。

#### (2) 図書館活用法とレポート・論文作成法とプレゼンテーション技法の基礎演習科目への組み込み

自学自習の基盤は図書館活用力を含む広義の情報リテラシーにある。司書課程履修者が学内の平均値からそう離れているのでなければ、在校生の情報リテラシーは驚くほど低いと言わざるをえない。大学教育の中の基礎教養教育が専門教育に必要なレベルを保證する施策が急務であろう。

### (3) 基礎演習科目と専門科目における図書、雑誌論文、新聞記事のデータベース検索の 反復応用の徹底

上級生を含む担当クラスでの経験上、ほとんどの学生が文献検索の基本さえ教えられたことがないという実態には驚くばかりである。この状態でレポート課題を与えてもサーチエンジンから適当に選んだ情報をコピーしてレポートを作成してしまうのも無理はない。広義の情報リテラシーについては基礎教養と専門の枠組みを超えて、独立科目、関連科目、統合科目において、全学生に対して初年次から体系的段階的に反復的に指導していくことが必要不可欠である。

### (4) レポート課題のパソコンによる作成とシステム上での提出の強化

学生のパソコン力の低さを改善するには、独立したパソコン講座を設置することの他に、各授業で学生に日常的にパソコンを活用してレポートを書き、プレゼンテーションをするよう課すことが早道である。授業形態を講義・ノートテイク・試験の旧来型のセットよりも、レポート・プレゼンテーション・ディスカッション主体の現代型に大学全体として進化させていくことが必要であろう。

## 4. まとめ——情報リテラシーの質の保証をめざして

図書館員の社会的評価は低下の一途をたどって今やコンビニのアルバイトと同程度の職種と見なされ、正規職員としての就職口はほとんどない状況にある。専門職の制度設計としてはすでに崩壊したも同然である。そんな中でも全国の大学は毎年1万人を超える司書資格取得者を社会に送り出し続けていて、人材の供給過剰に拍車をかけている。

図書館司書課程の実情の考察から見えてきた教訓は、大学の卒業証書についても当てはまる。大学は、修了者が持つべき知識・技能・姿勢の要求水準を従来以上に厳しく設定し、その水準を超える人材を養成するために最適なカリキュラムを設計し、授業の質的改善に努めなければならないはずである。大学の社会的評価を上げるには、卒業生の情報リテラシーの質を目に見える形で向上させることが必要不可欠である<sup>(6)</sup>。

## おわりに

昨2015年度、青木玲子先生から本学の図書館司書課程の3科目を担当する機会をいただき、2年間の授業経験から本学の教育現場の実情を把握することができた。教育界では昨今アクティブ・ラーニングが流行語になっているが、従来の授業は何だったのかと今さらながら不思議な思いに囚われる。17年間実践してきた授業改善のノウハウを本学の担当科目においても機器環境と学生の特性に合わせて適用してみた。その成果は受講生の声の中に記録されているとおりである。学期の前後でぐんぐんと成長した受講生たちの姿と感謝の言葉は教員の宝物である。彼らのコメントの行間を注意深く読み込めば、自ずから

問題点と改善案が見えてくるに違いない<sup>(7)</sup>。

本論文の前提となる図書館、図書館員、司書資格に関する著者の見解は、単行本<sup>(8)</sup>の他、映像教材<sup>(9)</sup>、多くの著書、論文、講演の全文・記録は著者ホームページで公開しているので、この場を借りてご参照を乞う<sup>(10)</sup>。授業運営や本稿の執筆・掲載に当たって、本学の教学支援室や図書・情報館のスタッフのみなさんにお世話になった。深く感謝を捧げたい。本稿が本学のカリキュラム開発や授業改善に多少とも貢献できれば幸いである。

—注・参考文献

- (1) 日本高等教育開発協会、ベネッセ教育総合研究所 編『大学生の主体的学びを促すカリキュラム・デザイン』ナカニシヤ出版, 2016.6.
- (2) 佐藤浩章, [他]編『大学のFD Q&A』玉川大学出版部, 2016.6.
- (3) 早田幸政 編著『大学の質保証とは何か』エイデル研究所, 2015.5.
- (4) 授業実践報告として、以下の論文を参照。著者ホームページにて公開中。
  - ・仁上幸治「司書課程の社会的評価の向上を目指す切り札—情報検索演習における「受講生による授業評価」の集計結果報告—」『法政大学教職資格課程年報』（法政大学キャリアデザイン学部紀要別冊）(1) [2003], 2004.3, pp.66-76.
  - ・仁上幸治「情報リテラシー底上げ奮戦記—自習時間ほぼゼロ学生のための論文・プレゼン指導—」『帝京大学総合教育センター論集』(2) [2010], 2011.3, pp.83-105.
  - ・仁上幸治「情報リテラシー教育を担う小中学校教員をいかに養成するか—教職志望学生の徹底改造を目指す司書教諭科目からの提言—」『帝京大学総合教育センター論集』(5) [2013], 2014.3, pp.69-93.
  - ・仁上幸治「マルチメディアのフル活用による双方向授業の試み—スライドショー、映像教材、ファイル配布・提出、アンケートの各システムを使い切る—」『帝京大学情報処理センター年報』(13) [2010], 2011.3, pp.77-91.
  - ・仁上幸治「情報メディアは作ってみればわかる—メディアリテラシー指導のプロ教師を育てる授業の工夫—」『帝京大学情報処理センター年報』(16) [2013], 2014.3 (7.26 刊行), pp.95-109.
  - ・仁上幸治「通信教育における図書館司書課程カリキュラムの問題点と改善案—情報サービス演習科目受講生の声にもとづく授業改善に向けて—」『論叢：玉川大学教育学部紀要』2015, 2016.3, pp.171-194.
- (5) 和光大学教学支援室編集発行『資格課程の手びき』2016, 和光大学, 2016.3.
- (6) 高橋和幸, 難波利光 編著『大学教育とキャリア教育』五紘舎, 2015.1.
- (7) 筆者のその他の授業報告は以下で公開。  
仁上幸治授業評価報告：<http://sites.google.com/site/nikamik23/class-evaluation>（確認：2016.10.31）
- (8) 仁上幸治『図書館員のためのPR 実践講座—味方づくり戦略入門—』樹村房, 2014.10.
- (9) 映像教材については以下のライブラリービデオシリーズを参照。
  - ・『図書館の達人』全6巻（VHS版）, 紀伊国屋書店, 1992.10-1993.7.
  - ・『新図書館の達人』全6巻（VHS版）, 紀伊国屋書店, 1998.3-2002.11.
  - ・『情報の達人』全3巻（DVD版）, 紀伊国屋書店, 2007.2.（仁上幸治・野末俊比古監修）：  
<https://www.kinokuniya.co.jp/01f/tatsujin/>（確認：2016.10.31）
- (10) 略歴、論文、講演等の業績は下記ホームページにて公開。仁上幸治ホームページ：  
<http://sites.google.com/site/nikamik23/>（確認：2016.10.31）

## 《付録 1 授業計画》

授業計画表 (情報サービス論 2016 年度前期)

回	テーマ	内容	詳細	ビデオ 1	ビデオ 2	ミニレポート	課題レポート
1	授業オリエンテーション	情報サービスの専門家をめざそう！	シラバスの確認と受講の心得		カメの玄関お出迎え編	授業オリエンテーション	『情報の達人 (テキスト)』第 2 巻「ゼミ発表をしよう!」「まえがき」を読む
2	情報サービスの実像	情報サービスの専門家の仕事ぶりを知る	情報リテラシー教育の専門的指導力を身につけよう!	新図書館の達人 1: 情報基地への招待		新図書館の達人 1: 情報基地への招待	図書館員の仕事
3	文献を探す	文献を効果的効率的に探すための基礎知識	様々な情報源の特徴を知り、上手に使い分けよう!	新図書館の達人 2: 文献探索法の基礎	スター・ウォーズ EP2 ジェダイアーカイブ	新図書館の達人 2: 文献探索法の基礎	プリント版の検索ツールを使う
4	情報検索入門	求める資料を効果的効率的に探し出す仕組み	検索式とトランケーションを使って試行錯誤してみよう!	新図書館の達人 3: 情報検索入門	ゲゲゲの鬼太郎「千年呪い歌」	新図書館の達人 3: 情報検索入門	検索式を使う
5	情報を整理する	検索結果を効果的効率的に整理する表技・裏技	あとで使うための整理法を日常的に応用して身につけよう!	新図書館の達人 4: 情報整理法の第一歩	ストロベリーナイト 第 4 話「過ぎた正義」	新図書館の達人 4: 情報整理法の第一歩	事典・辞書を使う
6	発表を支援する	図書館員は利用者の自己表現を支援する	情報探索の結果を加工・表現して最後に発表するまで	新図書館の達人 5: 情報表現法の基礎	サムライ・ハイスクール	新図書館の達人 5: 情報表現法の基礎	視聴覚資料を使う
7	執筆を支援する	レファレンスサービスは執筆活動を支援する	探した情報は加工して成果物に表現するためにある	新図書館の達人 6: レポート・論文作成法	クレヨンしんちゃん「嵐を呼ぶアッパレ! 戦国大合戦」	新図書館の達人 6: レポート・論文作成法	レポート・論文作成法に関する図書を探す
8	地域情報サービス	図書館は市民のための地域情報発信基地	単なる「無料貸本屋」のイメージを超える各地の努力を知ろう	『多様な図書館サービス』1. 地域情報サービス	GOSICK—ゴシック—	地域情報サービス	地域情報サービス関連論文を調べる
9	ビジネス支援サービス(1)	図書館は市民の起業基地	地域の産業と個人の新規ビジネスを支援する新しいサービス	『多様な図書館サービス』2. ビジネス支援サービス: 鳥取県立図書館	「ガールフレンド (仮)」橋本環奈「入学篇」	ビジネス支援サービス(1)	ビジネス支援サービスの論文探し
10	ビジネス支援サービス(2)	図書館は街の活性化に貢献する	ビジネス支援によって地域での図書館の存在感を強める	『多様な図書館サービス』2. ビジネス支援サービス: 御幸町/伊万里市	小悪魔ドクショ	ビジネス支援サービス(2)	ビジネス支援サービスの新聞記事探し
11	医療情報サービス	図書館は市民の医療情報交換所	個人の健康情報ニーズに応える新しいサービス	『多様な図書館サービス』3. 医療情報サービス	ゴルゴ 13 第 438 話 前編「万能ベクター・VOGUE」	医療情報サービス	医療情報サービスの雑誌論文と新聞記事探し
12	多文化サービス	図書館は市民の多様な文化を支援する	民族的・文化的・言語的な差異を尊重するサービス	『多様な図書館サービス』4. 多文化サービス		多文化サービス	多文化サービスの雑誌論文と新聞記事探し
13	障害者・高齢者サービス	図書館は市民の福祉を支援する	障害者・高齢者の暮らしを情報面で支えるサービス	『多様な図書館サービス』5. 障害者・高齢者サービス	本間一夫と日本点字図書館	障害者・高齢者サービス	理想のレファレンスライブラリアンになるには
14	学習成果の自己評価	情報サービスの現在と未来の像をつかもう	市民の情報ニーズを全面的に支援できる新しい専門職を目指す		SKE48(Team E) シャララなカレンダー	学習成果総括—自分自身の成長度と今後の課題—	仁上「情報リテラシー底上げ奮戦記」を読む
15	授業評価—来期へのメッセージ	情報サービスのプロに必要な知識と覚悟を持たせる授業	情報活用能力+指導力の前提としてコミュニケーションと積極性の向上にとことん挑戦する工夫			授業評価総括—授業改善のために各自がするべき課題—	授業総括—学習成果と授業評価—

《付録2 授業評価アンケート結果》

【1】集計結果表

学習成果の自己評価

	5	4	3	2	1	合計	平均
Q1. 自分の成長度を5点満点で評価すると何点ですか	0	16	5	0	0	21	3.76
Q3. この科目のテーマについての知識と技能は全般に向上しましたか	5	10	6	0	0	21	3.95
Q4. 意欲的かつ積極的に出席し授業参加できましたか	4	11	6	0	0	21	3.90
Q5. 授業中に集中して学べましたか	11	7	3	0	0	21	4.38
Q6. 課題レポートに積極的に取り組みましたか	9	10	1	1	0	21	4.29
Q7. 課題レポートに週60分以上をかけることができましたか	18	3	0	0	0	21	4.86
Q8. 級友に困っている人がいたとき自分から積極的に助けましたか	6	9	5	0	1	21	3.90
Q9. クラス全体の状況を見て授業進行に積極的に協力できましたか	5	8	8	0	0	21	3.86
Q10. 授業中の討論を盛り上げる努力を積極的にしましたか	5	11	3	2	0	21	3.90
Q11. 発言・発表に積極的に取り組みましたか	1	10	8	1	1	21	3.43
Q12. 自ら主体的に学ぶ意欲が向上しましたか	7	10	3	1	0	21	4.10
Q13. 知識共有の協働意識が向上しましたか	7	7	6	1	0	21	3.95
Q14. 専門職のありかたについての認識が得られましたか	10	9	2	0	0	21	4.38
Q15. 情報リテラシー教育と図書館利用教育の重要性を理解しましたか	11	7	3	0	0	21	4.38
Q16. 新しい知識や技術あるいは理論や考え方を習得できましたか	9	9	3	0	0	21	4.29
Q17. 問題意識や関心が深まりましたか	12	6	2	1	0	21	4.38
Q18. 授業外の自分の学習・研究に役立ちましたか	10	8	2	1	0	21	4.29
Q19. 履修前に司書(司書教諭)になりたいと思っていましたか	5	4	7	4	1	21	3.38
Q20. 履修後に司書(司書教諭)になりたいと思うようになりましたか	5	6	8	1	1	21	3.62
Q21. この科目を履修して良かったと思いますか	11	5	4	0	1	21	4.19

授業評価

	5	4	3	2	1	合計	平均
Q1. 授業の評価を5点満点で採点すると何点ですか	2	14	4	1	0	21	3.81
Q2. ねらいあるいは学習目標は明確でしたか	8	9	4	0	0	21	4.19
Q3. 教育内容や教材は理解できる内容でしたか	12	7	2	0	0	21	4.48
Q4. シラバスやオリエンテーションで示された内容と一致していましたか	6	11	4	0	0	21	4.10
Q5. シラバスの記述は履修や授業を受ける上で役立ちましたか	6	9	4	2	0	21	3.90
Q6. 教員の話し方や声の大きさ、説明の仕方は分かりやすかったですか	6	9	2	4	0	21	3.81
Q7. 教材(教科書、プリント、スライド、ビデオなど)は理解に役立ちましたか	13	4	3	1	0	21	4.38
Q8. 教員の熱意は十分だと感じましたか	13	8	0	0	0	21	4.62
Q9. 教員の準備は十分だと感じましたか	11	10	0	0	0	21	4.52
Q10. 質問や発言に丁寧に対応していましたか	3	10	5	3	0	21	3.62
Q11. シラバスや授業で示した成績評価の方法は適切かつ十分でしたか	7	8	5	1	0	21	4.00
Q12. 新しい知識や技術、あるいは理論や考え方の習得に役立ちましたか	13	6	2	0	0	21	4.52
Q13. 問題意識や関心が深まるよう配慮していましたか	10	7	4	0	0	21	4.29
Q14. 意欲的かつ積極的に参加するよう促していましたか	9	9	2	1	0	21	4.24

【2】集計結果グラフ

図1 学習成果の自己評価 (Q1成長度 平均3.76点)

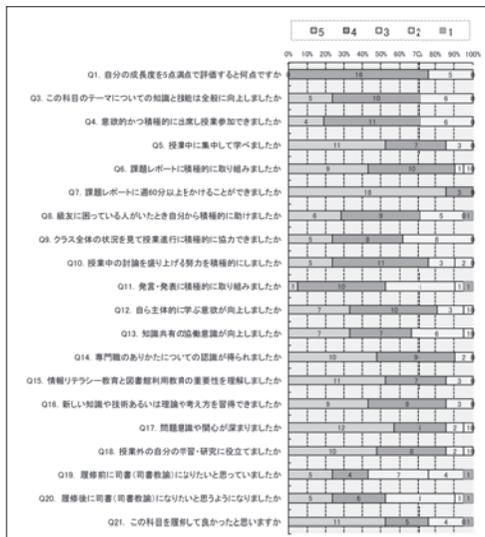
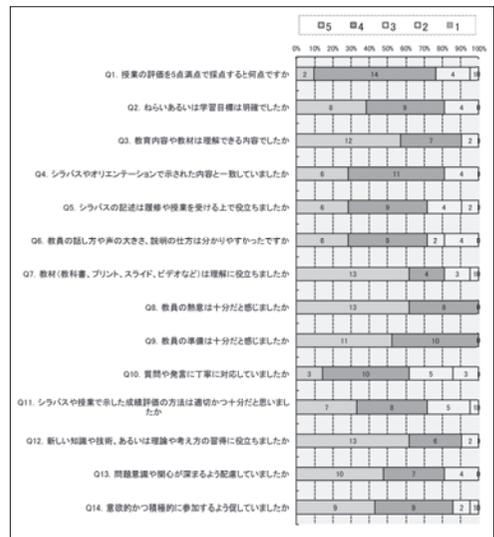


図2 授業評価 (Q1総合評価 平均3.81点)



**【3】 記述** \* ウェブアンケート提出回答の原文のママ

**3-1. 学習成果の自己評価** (Q1. 成長度 平均 3.76 点)

**Q2. その理由をひと言で表現すると (20 字以内)**

5 点 なし

4 点

- ◎積極性が上がったから。
- ◎レポートの書き方やグループワークでの討論の進行方法を実践で学べたからです。
- ◎書類作成や検索の技能が身についたから。
- ◎知識不足
- ◎多様なサービスと資料について知れた。
- ◎情報リテラシーに近づいた。
- ◎レポート力、コミュ力、知識がついたから
- ◎図書館に対する知識は向上したが、まだ課題はあるから。
- ◎調べるための意識や知識が身についたから。
- ◎成長したところもあったが成長できなかったり課題がでてきたりしたから。
- ◎NDL-OPACの使い方やコミュニケーション能力など基礎的なことを習得することができた。
- ◎成長は確かにしたがしきれておらず、満足はできない
- ◎積極的に自分の意見を述べるようになったことである。グループ討論を通して、まわりの意見を尊重しつつ、自分の意見を見つめることができた。
- ◎課題に意欲的に取り組むことができた。
- ◎課題に対応する能力の向上
- ◎0からは確実に成長したが、100%吸収しきれたとは言えない

3 点

- ◎調べ方、書式の重要性を理解した。自分の意見を相手に伝えることに慣れた。
- ◎最低限の事は学べたが、自主性が低かった。
- ◎学生生活外、司書になった後も活かせる知識
- ◎まだ自分自身に力がつたと思わなかったから。
- ◎様々な検索ツールについて知ることができた

2 点・1 点 なし

**Q22. この授業を受けて自分が大きく成長した点**

5 点 なし

4 点

- ◎この授業を受けて自分が大きく成長した点はやはり、授業での積極性が上がっただけでなく、授業内での様々な図書館の情報支援サービスについて学べ、それについて実際に図書館に行ったりと行動的にもなったことが一番の成長した点である。
- ◎人と喋れるようになった事だと思います。先生には勘違いされていたようですがこれは働くうえでのコミュニケーションとは違い、自分として人と話すことを指していました。アルバイトではその店の店員として接客できますが、学友と話したり打ち解けたりというのが苦手だったのですが、この授業を受け何人か友達が増えるぐらいいは成長しました。
- ◎討論やビデオ学習を通して、現在の図書館とはどういうものか、これからは何が求められているのかを学ぶことができた。討論では、なるべく自分から質問やコメントを出すように心掛けていたので、成長できたと思う。ただ文章を考えるメモ程度にしか利用していなかった Word も、書式を考えつつ作成するのに慣れてきたと感じる。
- ◎成長した点は以下の4点である。一つ目は、情報探索、情報処理の基本的な部分を身につけることが出来たことだ。二点目は毎週向きあうことで、レポートに向きあうことが、苦しくなくなった。三点目はあがり症だったが、人前で自分の考えを淡々と話せるようになった。四点目は、情報サービス論の課題レポートを含めて、所用時間が短くなった。ようするに、
- ◎この授業を受けて自分が大きく成長したと感じるのは、以下の3点である。1点目は、図書館サービスに関する知識を得たことである。2点目は、多様な検索や資料を知れたことである。3点目は、資料を利用したレポートを作成できるようになったことである。

- ◎この授業で自分が成長した点は2点ある。第一に調べ方の幅が広がった。紙の二次資料やOPACの検索など、自分がどんな時にどの調べ方をすればいいか分かるようになった。第二に図書館の多様なサービスを知り、いろんな図書館にあるサービスに興味を持つようになった。自分の中で図書館に対する意識が変わったので、今度は他の人に伝えられるようになりたいと思う。
- ◎レポートで自分の調べた事を端的にまとめる力、またグループで初対面の人たちと気兼ねなく話すコミュニケーション力を養う事が出来た。また、司書の専門性を知ることができこれからの勉強の明確な課題を見つける事が出来たため、その点でも大きく成長することができたと思う。
- ◎図書館に対する知識が向上したとともに、図書館に対しての好奇心や興味も高まった。特にまだまだ自分が知らない図書館や、今こうしてアンケートに回答している間にも、今まで誰もやってこなかった・やろうとしなかった取り組みを試みる図書館や、取り組んで図書館が誕生しているかもしれないと思えてきている。他にも図書館の利用者サービスの意義や、現代における図書館の意義について知り、考えることができたことにより、現代社会の課題が見えてきて、一つの物事の問題が別の物事の問題につながっていることがわかったのも成長できた点だと思う。
- ◎知らない事を自発的に調べようとする意識や、そのための手段についての知識が身についた事が挙げられる。今までは与えられる知識について受動的であったが、少し能動的になれたように思う。また、グループ討論により、知らない人と会話する力（コミュニケーション能力）も上がったように感じる。
- ◎知識や技術が全くなかったのが、基本的な知識や技術、情報リテラシーを身につけられた。討論をやったことで自分の意見を考え、相手に伝える力がついて成長につながった。毎回のレポート課題のおかげでパソコンの基本技術やレポートの書き方を学べた。今まで機会がなくパソコンもレポートもほとんどやらなかったのが、機会が増えたことで身につけることができて成長した。
- ◎図書館のことを今まで何も知らなかったが、本当の姿をどんな活動をしているのかを知ることができた。今までできなかったことを身に付けることもでき、レポートの書き方も身に付けることが出来たように思う。
- ◎この授業を受けることで、有料データベースなど初めて扱ったもの、存在自体初めて知ったものが増え、くつもあつた。そういったものを活用してもっと幅広い知識を身に付けたいという意欲が持てるようになったことが一番の成長だと考えている。
- ◎自分が得たいと思った情報資料にすぐにたどりつけるようになったことである。検索式などを使い、論文検索ができるようになったのも、この授業を受けてできるようになったことである。
- ◎文章を要約する力が身につき、タイピングの速度が上がった。
- ◎課題をこなす能力、グルーptークに対応する能力、資料の扱い、探索能力など。基礎的な能力の数々がこの授業以外ではなかなか学べず、それでいてこの授業以外にも有用な能力の大きな成長を感じた。
- ◎一つ目に発表する力がつけられたという点だ。決められた時間内に自分の伝えたい内容をまとめ、尚且つ伝わりやすいように話すという経験をしたことによって発表能力が鍛えられた。また、同時にコミュニケーション能力も鍛えられた。次に司書についての基礎知識がついたという点だ。授業選択の関係で全く知識のなかった自分には映像での説明だけでなく、実際に検索などしてみることもとても有効だった。

### 3点

- ◎1点目は調べ方、書式の重要性を改めて理解した。今までレポートなどは書籍しか引用しなかったが、新聞や有料版の辞書を使うことができるようになった。2点目は自分の意見を相手に伝えることに慣れた。話すことが目的な授業なので、1人だけではなく、必ず話さなければいけないため、意見をしっかりと言えるようになった。3点目は今の図書館の現状がわかった。特色のある図書館が多くなり、求められている能力の多さにも驚いた。
- ◎図書を検索するという、基本的な部分を徹底的に練習することで、検索システムを友好的に活用し、ほしい資料を的確に検索することができるようになりました。後半の様々なリファレンスサービスについては、多文化サービスやビジネス支援などは知らなかったもので、新たな発見ができました。それぞれの事例を調べることで、図書館の情報が、新聞や論文などから得られることも知りました。
- ◎図書館に対する問題意識の向上が、最も成長した点であると感じる。以前は、行政による支援が不足しているという程度の認識だったが、図書館によるビジネス支援等の様々なサービスを調べ、それを通して図書館の現状を深く知っていった。学生の内はあまり必要のない知識だと感じるが、実習など司書として働いた際に差が出るのではないかと感じるほど、様々なことを知り、また今後も調べていきたいという意欲も増したと感じている。
- ◎自分の成長したと感じる点はコミュニケーション能力の向上と文献使用時の決まり事などに関する知

識が向上したと感じた。コミュニケーション能力に関しては初回より確実に became と感じる。他の人の意見などもしっかり聞いて返答できるまでになったので、そこはもっと伸ばしていこうと思う。

- ◎まず、レポート課題についてあまりそこまで怯えなくなったことだ。レポートに慣れてきたのだと考える。また、地域の図書館の活動に興味を持ちそれについて深く考えることができた。また、様々な検索方法を知りそれを積極的に使うことができるようになった。これが成長した点だと考える。

2点・1点 なし

### 3-2. 授業評価 (Q1. 総合評価 平均3.81点)

#### Q1-2. その理由をひと言で表現すると (20字以内)

5点

- ◎洗練さ
- ◎講師と受講生がお互いに協力して良い授業環境を作れた。

4点

- ◎毎回、授業を改善してくれてたから。
- ◎PCを使った授業として考えると、グループワークも同時に行っていたので「ただ受けている」授業ではなかったのが良いと思います。
- ◎幅広い学習ができて会話が密接だったから。
- ◎各種サービスを映像で分かりやすく学べた。
- ◎グループ討論で広がる考え。
- ◎15回受けての自己成長、充足感が強いため
- ◎授業設計は目的に沿っていたため。
- ◎生徒のことを考えた成長出来る授業だった。
- ◎常に生徒と一緒に作る授業であった
- ◎一見、図書館に関係なさそうな動画でもよく吟味して見てみると、図書館業務に関するヒントが映像の中にちりばめられていた。
- ◎知識が向上した。
- ◎他の授業とは違ったものが得られた
- ◎改善対応は早い、課題締切が早すぎた
- ◎レポートの締切日の速さが、大変だった。

3点

- ◎学習目的が最初分かりづらかった。
- ◎悪い点の裏には良い点がある
- ◎人との交流があったことがよいと思ったから。
- ◎ビデオ学習が分かりやすくてよかった。

2点

- ◎無駄が多いように感じる事が多くあった。

#### Q15. 授業の内容や運営でよかったこと

5点

- ◎Moodleを活用しており、発言出来なかった学生へのフォーラム投稿の救済。・スクリーンの内容がレジュームにされており、メモ程度で済み映像に集中出来た。・最近の公立図書館のサービスを学習することができ、良かった。
- ◎映像資料が準備されていて、講師が喋ったり、自分でレポート書くのとは別の角度から学習できて良かった。映像資料の種類も豊富で、DVDだけでなく、映画の1シーンであったり、バラエティ番組やアニメであったり、CMであったりして、意外と図書館モチーフのものが多いことに気づかされた。

4点

- ◎情報支援サービスについて様々な視点から多角的に取り上げていることに感心した。特にビジネス情報支援サービスについて二回授業を受けたが、あのようなサービスが無料で受けられてしまう事に驚いた。毎回映像資料を出してくれることにも学生の意欲が湧いてくる。
- ◎色合いに問題があった時もありましたが、スライドショーは見やすく簡潔に纏められていて見やすかったです。マイクの使い方には賛否両論でしたが「みんなに届ける」という意味では使うべきものを扱っていたと思います。

- ◎この講義では、自分の意見を発信したり、人の意見を吸収したりというように討論ができたことが一番のためになった。人の意見を聞く機会が毎回あったので、とても刺激的で有意義な講義になったと思う。
- ◎授業でよかった点は以下の2点である。1点目は、各種の図書館サービスに関して、映像資料によって実際の館で行われていることを具体的に知れたことである。2点目は、他の受講者の視点や意見を知ること、多角的に考え、視野を広げることができた点である。
- ◎この授業の運営や内容でよかった点は3つある。1つ目に運営の柔軟な対応がある。アンケートの意見にすぐに対応していく授業はこれまでなく、新鮮だった。2つ目にグループ討論がある。様々な意見が聞けるのはもちろん、いろんな人の調べたことを知れたのは興味深かった。3つ目はレポートの経験値が増した点である。だんだん慣れていくことができ、技術が上がるのを感じることができた。
- ◎アンケートが良かった。アンケートのおかげで自分の毎回の授業参加度を確認することができた。また改善点を提示することで次回からそれらの改善点が実践されており好感が持てた。そのおかげでストレスを感じることなく毎回の授業を受ける事が出来た。
- ◎先生と学生との授業だけにとどまらず、学生同士の討論により多くの意見を知れる授業構成が良かったと感じた。また、教員がなど学生からの要望・意見に素早く（時には試験的な試みも交えながら）対応していたのは、教員と学生と一緒に授業を作っているようでとても良かった。
- ◎基本の知識や技術を学べるようになっていたのがとても良かった。情報リテラシーを備えていないと社会に出てから困るのでそういったことを学べる授業でとても役に立った。毎回のレポート課題も大変だったが自分の力になるもので授業を受ける前よりたくさん力をつけれたのが良かった。
- ◎映像資料において、冒頭は親しみやすいものを、中盤には専門的ながら分かりやすいものを使用しており、集中力と理解力を高められた。また、生徒からの意見が積極的に取り入れられていたため、回を重ねるごとにさらに受けやすい授業になっていった。
- ◎授業の冒頭などで、図書館に関する動画を見せてくれたりした。私は、この授業を受ける前、情報リテラシーってなんだろう、難しいのかな、など、かなりマイナスにこの授業について考えていた。すくなくならず、私以外にも何人かの生徒もそのように考えていたのではないだろうか。難しそうだな、と考えていた固定概念を根こそぎとってくれたので、とても授業にのめり込みやすい環境だったと考える。
- ◎コンピューターの使い方に詳しくなれた。
- ◎毎度のアンケートで生徒からの改善案があがると対応が早かった点。先生の柔軟性と生徒への思いやりあってこそだったと思った。ムードを授業に組み込んだ点。扱うのは難しかったが、とてもよい経験になった。
- ◎まず改善対応がどの授業よりも早かったという点があげられる。記入したコメントのフィードバックが次回授業までに返ってくるのが新鮮だった。次に、グループ討論がとても多かったという点だ。司書を目指すにあたって、このような経験を多く積むことが出来たことは非常に良かった。最後に映像によってリアルに図書館というものを感じることが出来た点だ。映像として実際の現場を見せてもらえたことでイメージがしやすかった。
- ◎1点目は色々な映像が見れて、図書館のあり方や、特色、図書館員の姿など参考になった。2点目は自分の意見を言う授業はないので、思っていることを言えて、共感できる部分とそうではない部分などあり、面白かった。また他の人の意見は自分が考えていなかったことの視点が多く参考になった。3点目は調べ方を一から教え、実践をやらしてくれたので、調べ方の方法が身についた。

### 3点

- ◎映像資料が分かりやすく、授業の内容を理解しやすかった。文章だけでは分からない実際の様子は、やはり映像からでないとうからないので、必要な教材だと思います。図書館に実際に利用する課題は、やってよかったと思います。
- ◎小グループ討論は自分とは異なる意見を聞く事のできる良い機会であった。また、極少数で行う事によって声が届きやすく、質問もしやすい空気が作られており、討論を深めやすい環境となっていた事から、討論のいい経験を積む事が出来た。
- ◎他学科や他学年との関わりが増えたことや他の授業ではないようなことが(映像資料)あったことがとてもよいと感じた。コミュニケーション能力の向上ができたのもこの授業での討論や発表があったからだと感じるので、今後も継続していくことが重要だと感じた。
- ◎まずビデオでの学習である。ビデオでの学習はとても分かりやすく、飽きずに授業を受けることができた。特に、いつも授業の最初で出てきたビデオは、様々な切り口から図書館について見ることができた。次に様々な人とのグループ学習だ。自分の考えを自分の中に留めておくのではなく発信して、

みんなと意見交換することで自分の考えをより深めることができた。また、毎回違う人と組んだので毎回新鮮な気持ちで発表することができた。

## 2点

◎毎回のアンケートで寄せられた学生の意見をすぐに反映してくださったのは良かった。

## Q16. 授業の内容や運営で改善してほしいことなど (100字から200字程度)

### 5点

- ◎授業の課題で、実際に端末使用が必須なものがほとんどで、一石二鳥な課題だった。基本が学べたと思う。しかし、内容が図書館関連に絞られており、他の情報要求に応えられるのが不安である。応用力を身につける名目で、基本の課題とは別に、実際に要求があった問題を出して欲しい。
- ◎授業内で発言する人、発言しない人に分かれてしまっていたので、発言させるよう促すことが必要だと思う。ゼミ発表を前提とした教材を使用しているのに、受講生の大半がプレゼンテーションに使うツールを使いこなせないことが判明したので、使いこなせるよう指導するなり講習会を開くなりといった対策が求められていると思う。

### 4点

- ◎個人的なことだが、もう少し障害者情報支援サービスについて学んでおきたかった。ビジネス情報支援については1回でよかったのではないかと考えている。特に日本点字図書館についての話は、映像資料だけでは語れない事が多い為、もっと他の学生にも深くまで知ってほしかった。
- ◎レポートの課題の締切期間は短めだなと感じました。今回も最終回が終わりさらにはテスト期間中の課題で、自分が出来ないからどうのと言うわけではなく締切時間を例えば0時にするなどの配慮があるとやりやすいと思いました。
- ◎学校側が司書課程履修モデルをつくるべきだ。司書課程の履修は数年単位で行うものなので、学生のみ任せると、適切な取り方が分からなかったり、他の科目と被った際に対応が難しく、4年次までに取りきれないことがあるからである。
- ◎授業の改善点は以下の3点である。1点目は、検索式を立てる練習を授業内で行うべきであるという点である。2点目は、課題レポートの負担軽減のため、分量の削減や提出日の延長をするという点である。3点目は、高齢者サービスに関しても授業時間を割くべきだという点である。
- ◎授業の改善点としては、1点だけある。それは、第一回の授業をオリエンテーション期間行うのではなく、許可科目にするか、前半と後半の2回に分けてオリエンテーションを行うか、せめてオリエンテーション期間から授業が始まることを講義要目を書いてほしい、という事だけである。
- ◎教員について、説明をもっとするべき。二段組みのやり方や、テキストボックスを使わない枠の使い方が分からなくて困ったため。学生について、moodleが活用できていないのが気になった。積極的にムードルを使う事でもっと意見交換ができれば良かった。
- ◎授業の目的に「情報リテラシーの向上」を含むのであれば、授業中の参考動画として（違法とわかっていながらであれば尚更）違法アップロードの動画を流すのはあまり望ましいとはいえない。例えばアニメであれば、そのアニメのDVDの情報を紹介して、どうしても映像を見たいのであれば公式が出している紹介PVを見れば良いのではと感じる。作品によっては大学図書館にリクエストしてみるのもいいだろう。
- ◎フォーラム投稿が少ないので改善すべきだと感じた。毎回ノートテイクの課題が出ていたが授業内で活用される機会が全然なかった。1度ノートテイクをグループで見せ合う機会があって自分のノートテイクに生かしてとても良かった。しかしそれ以降はなくて残念だったのでもう少し機会があるといいと感じた。
- ◎毎週のレポートにかかる負担はやはり大きいものである。全員分のレポートをチェックするにあたって締め切りを遅らせることはできないかということや授業内で聞いたため、内容をもう少し軽くすることで対策とすることはできないだろうか。
- ◎大学側に、司書家庭のモデル時間割のようなものをヒントでもいいから、作ってもらえると、好ましい履修ができるのではないかと思った。改善案として、情報サービス論と〇〇という授業と一緒に履修して、□□の授業を履修していないと、情報サービス論は履修不可、など。
- ◎もう少し教員側からの説明を増やす。
- ◎・映像資料の古さ 映像資料の内容は現在においても有用な点多かったが、やはり時代的なずれも多かった。・ノートテイク 見せ合いが一度しかなかったのが残念だった。・違法アップロード 情報リテラシーを高める目的のある授業のため、違法アップロード動画を授業で使ってしまうことは危険だと感じる。

- ◎一つ目に、基礎知識が無くともこの授業を履修できるという点だ。基礎的な知識を教えるために時間を取られ、もっと踏み込んだ話題が出来たであろう時間がなくなってしまった。次に毎週のレポート提出の期間が短すぎると感じた。水曜日の5限に発表されて締切が月曜の5時であったが、締め切り時間が5限の授業内なので講義を入れていた場合4限までに提出しなければならないという点は改善すべきだろう。
- ◎大学に対し、新聞の文献を探すときに、人数制限があり、レポートを書くのに時間がかかってしまった。また、新聞を要約しているときなど、パソコンを少しの間触らないだけで、新聞が読めなくなってしまうので、利用できる数や使用時間を増やしてほしい。学生に対し、グループを作るのに時間がかかりすぎた。また、マイクの受け渡しに時間がかかった。

### 3点

- ◎授業外で行う課題が、大変すぎる。1回のボリュームを増やして回数を減らすか、ポイントを絞って週1でも無理のない内容にした方がいいと思う。1つの授業の為にここまで時間を割くのは、今の大学生には無理があると思う。
- ◎学生の声が反映される授業ではあったが、違法アップロード映像の利用に関しては改善されることがなかったと思う。どの資料も紹介される映像として適していたとはいえ、著作権についても意識し続ける必要がある司書としては行っていない行為であったのではないだろうか。第8回時に紹介された『GOSICK』の様にDVD化されているものはレンタルを利用するか、またダビングしたものを活用するなどの改善を取る必要があるだろう。
- ◎資格課程の説明の不十分や点は改善していただかないと今後も資格課程を履修する生徒が困る面が多く発生すると感じるので、早急に改善するべきだと感じた。
- ◎この授業で改善してほしいことは、レポートの締め切りを延ばしてほしいことだ。私は、以前の授業で論文を調べていたとき、目当ての論文が和光大学図書館にも地域の図書館にもなくて、なくなるとその資料を諦めたことがあった。取り寄せには時間がかかり締め切り日に間に合わないのだ。折角前期の授業で図書館司書の授業を受けてきたわけだから、全体の授業で2、3回時間をかけたレポート課題を作ってもいいのではと考える。

### 2点

- ◎毎週のようにレポート課題があり、他の講義でも課題が多く出るので正直大変であった。

## Q17. 図書館司書課程全体に関する感想・要望など自由に書いてください

### 5点

- ◎二年次から取得という和光大学の資格制度を見直して欲しい。・基礎科目を取得してから演習を取れるという仕組みを見直して欲しい。・司書課程の講義が、取りたかったゼミの時間と被っていたので、なるべく配慮して組んで欲しい。
- ◎資格課程を2年からでなく1年から受けられるようにしてほしい。途中で心変わりして司書だけでなく、学芸員の資格を取りたくても2年で授業の履修届を出し終わってからは間に合わないというのは流石に酷に感じる。もしくは1年の段階で資格課程受講を考えている人のために説明会を開いたり、図書館概論といった資格課程の入門編にあたる授業を課程として組み込むのではなく、一般教養科目として扱ってほしい。

### 4点

- ◎司書課程が、一年の頃からとれていたら最高だったと思う。授業や他の資格を取りやすくなり、今よりもぎゅうぎゅう詰めにしなくてすむのではないかと感じる。また、パソコンの立ち上げが遅かったので最初に来た人と協力で先にPCを立ち上げた方が良かったと思う。
- ◎授業内討論で出てきた意見ですが、やはり資格課程は1年次から履修できるようにするべきだと思います。あとはPCの回線をもう少し軽くして頂けると作業しやすいのではないかな…と思っています。
- ◎大学生は、在学中に司書課程の履修をすることをはじめから決めてくるものだと思うので、4年で余裕を持って取りきれれることを前提に、もっとしっかりした説明会を開くべきだ。毎年時間割を組む際にも、適切な取り方が分からず悩むことが多いからである。
- ◎図書館概論を1年生から受講できるようにするべきであるという意見があったが、自分も同感である。図書館司書は専門職であり、多くの知識と経験を要する。そのため、3年間で授業を詰め込むのではなく、概論を1年生で学び、その土台の上に他の授業で知識を積み上げていくことが重要であると考えている。
- ◎授業はいいが、大学側の問題を何とかしてほしい。その問題とは、図書館司書のカリキュラムを受講する人の説明不足である。この授業で話し合ったことで自分だけがそう考えていたのではなく、多く

の人が説明不足を感じていると知った。改善案としては、図書館司書課程は図書館司書課程だけで説明会を行い、どの授業からとるといいかのモデルケースを提示してしっかりと説明を行うべきである。

- ◎大学・過程について。過程の改善があるとよい。まず説明会でのしっかりとした説明。概論の履修や、履修順の望ましさをしっかりと教えてほしい。次に履修モデルを作るべきだ。また授業以外の司書課程履修者の交流会も行い、意見交換をべきだ。学校側からのそのようなアプローチもあって良いと思う。そして初年度からの図書館概論の必修化をした方が良いと思った。
- ◎一応、資格課程オリエンテーション時に司書課程の履修モデルケースの提示はあるものの「何故その講義をそのタイミングで取らねばならないのか」という説明がないため、モデルケースの意味を成していないように感じる。そのため、提示されるモデルケースについての詳しい説明の追加を求める。
- ◎司書課程をとるときに履修モデルの説明をしてモデルケースを提示してほしい。基本の概論などをとってからでないと理解しにくい授業があって苦労した。だからどの授業が何年で取ったほうが良いなどといった説明を受けてから授業をとりたかった。
- ◎概論などで学ぶ基礎知識を必要とするこの授業は、2年生としてついていくのが難しく感じる時もあった。履修条件を改定して、概論を1年から履修できるようにしてもらえればよいのだが、それができないとしても教員間で情報共有することで適切な履修について提示できるようにしていきたい。
- ◎機材の起動が遅かったり、フリーズしてしまうことが多々あるので、そのあたりを改善してほしいです。学校にいる図書館司書の方をゲストとして呼んで、和光大学でのレファレンスサービスはどのようなことを行っているのかを紹介する回などあったらおもしろいと思います
- ◎コンピューターの起動速度をもう少し早くしてほしい。
- ◎大学に関して。パソコンの通信が非常に遅く、課題や学びの進み具合に影響が大きいので、もっと重要視してほしい。司書課程に関して。履修モデルは一応提示されるものの、その内容についての説明が浅いため、もう少し詳しくしてほしい。
- ◎もっと授業の取り方についての工夫が欲しかった。改善点としても書いたが、自分のように基礎知識のないものが発展型の授業を受講した場合、基礎のできているものの足かせになってしまう。受講のモデルケースに注意書きの一つも欲しかった。
- ◎図書館資格をとれる大学なのに、司書課程を取る人しか図書館を利用していない気がしたため、大学側はもう少し利用者を増やす努力をした方がよいのではないかと。図書館でパソコンの使い方など企画をしているが、参加しにくい雰囲気があったため、司書資格以外の授業でも、図書館の利用法を学ぶ機会を増やした方がよいと感じた。

### 3点

- ◎図書館司書課程の教員の授業は、分かりにくいものが多い。教授の授業と比べると、本当にわからない。授業の時間割に関する希望調査だけではなくて、教員に対する文句が言える機会を大学側には用意してほしい。
- ◎大学側による司書課程の受講条件の変更等の課程の見直しが必要である。「図書館概論」の受講を1年後期から履修可能にする事、4月のガイダンス時にモデルケースを紹介するなど、学生に対して適切な説明が求められる。これらの改善によって、授業への理解度も高まり、司書としての技術向上にも繋がるのではないだろうか。
- ◎学生に関してはもっと討論時に積極的に質疑応答に参加してほしいと感じた。
- ◎司書課程に対してなのですが、1年生から資格をとれるようにしてほしいと考える。図書館概論という授業が取れていないうちから、他の司書課程の授業を受けるとやりにくかった。専門用語が分かるとやりにくかった。

### 2点

- ◎資格課程の履修モデルを出してほしい。

以上 (2016.12.15 入稿)